

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第32週 （8月5日～8月11日）

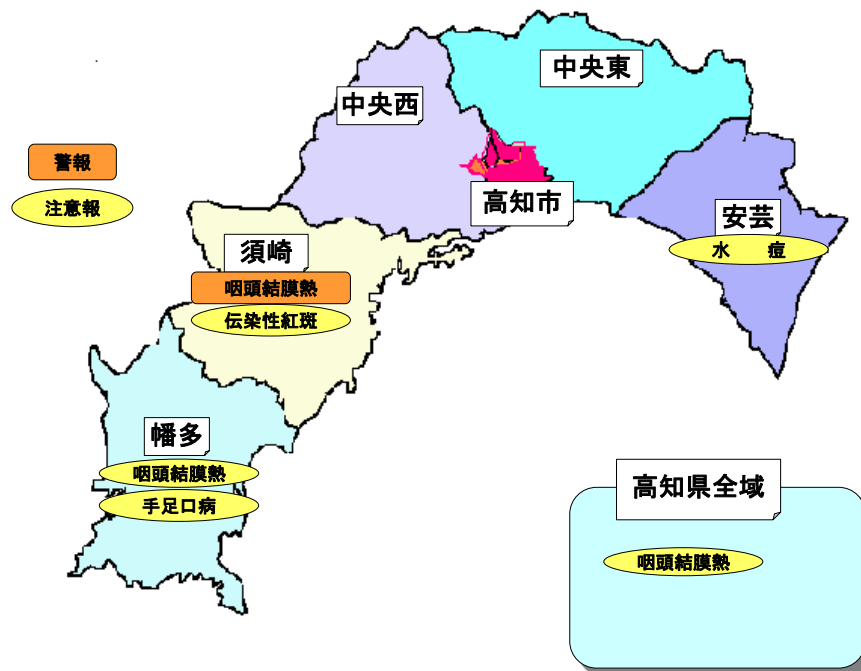
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑ : 急増
 ↗ : 増加
 → : 横ばい
 ↘ : 減少
 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	2.67	幡多で急増、県全域、高知市、中央東、中央西で増加しています。
RSウイルス感染症	↗	1.60	須崎で急減、安芸で減少していますが、中央西で急増、県全域、高知市、中央東で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.23	幡多で急増しています。
咽頭結膜熱	→	1.03	中央西で急減、高知市で減少していますが、須崎、幡多で急増し、須崎では警報値を、県全域、幡多では注意報値を超えています。
手足口病	↓	0.83	県全域、幡多、中央東、須崎で急減、高知市、安芸で減少していますが、中央西で増加し、幡多では注意報値を超えています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

咳やくしゃみの飛沫による感染症はたくさんあります。電車や職場、学校など人が集まる場所では「咳エチケット」で感染対策しましょう。

咳エチケット

- （1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- （2）咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- （3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。



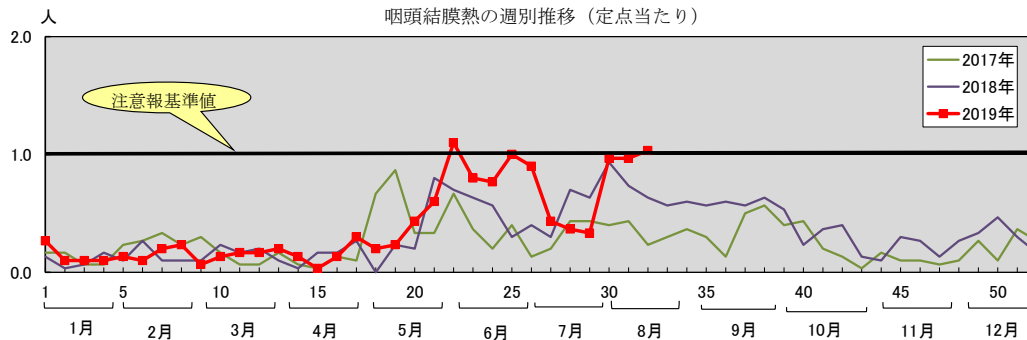
★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

○咽頭結膜熱に気を付けて！

発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とする急性のウイルス感染症です。

潜伏期は5～7日で、症状は発熱、咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）、結膜炎が三主症状です。

小児、特に5歳以下に多く、例年5月中旬から下旬頃にかけて患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークとする流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。プールや温泉施設を利用する際は、前後にしっかりとシャワーを浴びるようにし、プールからあがったときは目を洗い、うがいしましょう。



<予防方法> これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

- ・手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・タオル・コップ等は別のものを使い、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。

●咽頭結膜熱について（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou17/01.html>

●厚生労働省 「わかりやすい感染症 Q&A」（O157, つかみ病, つつが虫病, 高病原性インフルエンザ, 咽頭結膜熱, 感染性胃腸炎, 手足口病, 伝染性紅斑, 突発性発疹, 風しん, ヘルパンギーナ, 麻疹, 流行性耳下腺炎, インフルエンザ）

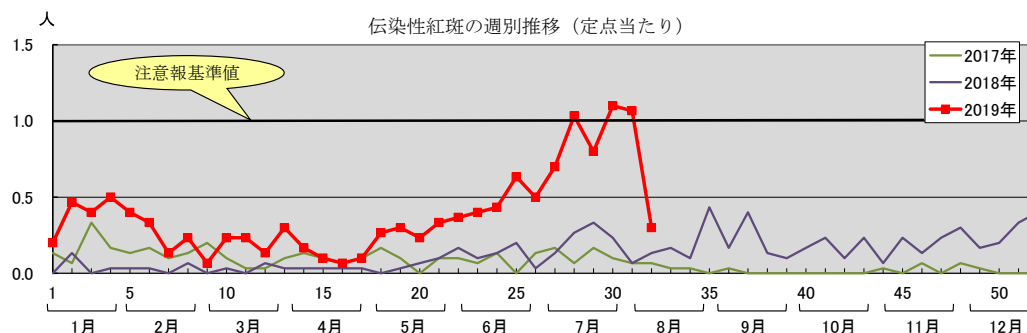
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou16/01.html>

○伝染性紅斑（リンゴ病）気を付けて！

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。

7日前後の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常1週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発しんが出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発しんが現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。



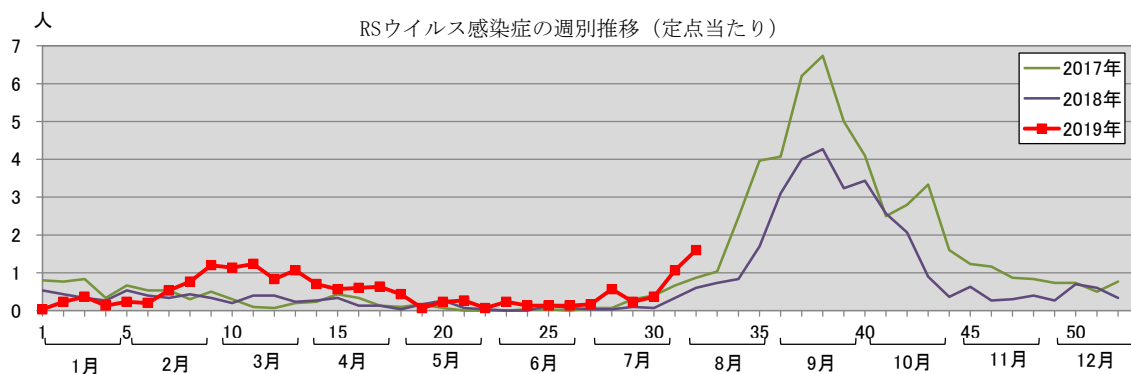
<予防方法> 手洗いと咳エチケットです

飛沫感染や接触感染なので、手洗い、咳エチケット等の予防対策が有効です。予防接種はありません。ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さない場合もあるので、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ発熱などの症状のある患者との接触を避けるよう注意しましょう。

○RSウイルス感染症に気を付けて！

この病気は2日～1週間（通常4～5日）の潜伏期間の後に、軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。一方、年長児や成人は、感染しても症状が軽いこと

が多く、気が付かずに感染源となる可能性があります。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。



＜予防方法＞ 咳エチケットと手洗いが大切です

- ・現在、ワクチンはありません。
- ・咳エチケットと手洗いを心がけましょう。

患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。

●RSウイルス感染症 Q&A (厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

★ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A (厚生労働省)
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所 マダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
32	—	発疹,	5	女	高知市	human parvovirus B19
32	不明発疹症 (EB?)	39°C,発疹,	4	女	須崎	human parvovirus B19
32	手足口病	発疹,	1	女	須崎	Cytomegalovirus

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
31	感染性胃腸炎、咽頭炎	39℃,咳嗽,	1	男	中央東	Adenovirus 41
31	—	40℃,	1	男	中央東	Adenovirus 41
31	感染性胃腸炎	39℃,腹痛,	3	女	幡多	Adenovirus 41
31	ヘルパンギーナ	39℃,上気道炎,	8ヶ月	女	中央東	Coxsackievirus A6
31	感染性胃腸炎?	38℃,咳嗽,	4ヶ月	男	須崎	Echovirus 11
31	手足口病	39℃,発疹,	11ヶ月	男	高知市	Enterovirus 71
31	流行性耳下腺炎?	40℃,嘔吐,嘔気,咳嗽,	5	男	須崎	Herpes simplex virus 1
31	流行性耳下腺炎?	40℃,	12	女	須崎	Herpes simplex virus 1
31	気管支喘息急性増悪	38℃,咳嗽,	2	男	中央東	Rhinovirus

<国内の手足口病由来ウイルス検出状況>

国内の手足口病由来のウイルス検出状況は、直近5週間(2019年第26週~第30週)では、Coxsackievirus A6の検出割合が最も多く71%(96件)、次いでCoxsackievirus A16が12%(16件)、Rhinovirusが5%(7件)、Human herpes virus 6が1%(2件) Parechovirus 3が1%(1件)となっています。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	74	70歳代 男	中央東
		1		80歳代 男	幡 多
4類	A型肝炎	1	2	70歳代 男	中央東
5類	百日咳	1	110	10~14歳 男	高知市
		1		40歳代 女	
		1		5~9歳 男	須 崎

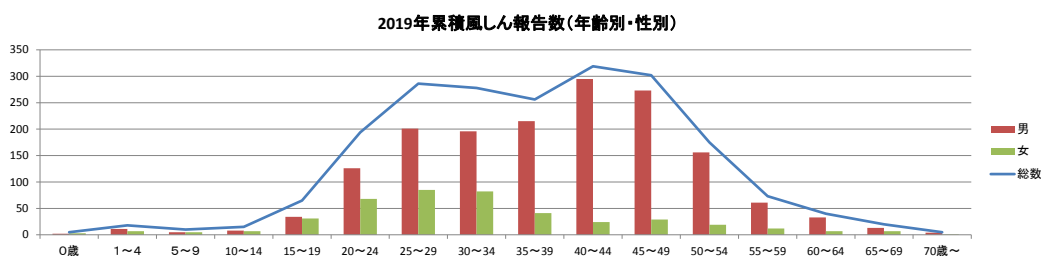
★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	おひさまこどもクリニック	RS+咽頭結膜熱 1例 (6ヶ月女)
	高知大学医学部付属病院小児科	hMPV 細気管支炎 1例 (1歳女)
	早明浦病院小児科	E coli O1 1例 (1歳女)
	田村こどもクリニック	水痘 1例 (4歳女:予防接種2回済み)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 5例 (1ヶ月女、2ヶ月女、9ヶ月男、1歳男、3歳女)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 3例 (1歳、2歳、3歳) ノロウイルス胃腸炎 1例 (1歳)
	三愛病院小児科	アデノウイルス感染症 2例 (2歳男、5歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 2例 手足口病 3例 ヘルパンギーナ 3例 胃腸炎が少しはやり始めている
	細木病院小児科	ノロウイルス 1例 (1歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	手足口病 1例 (1歳女:県外から帰省)
	日高クリニック	hMPV 2例 (1歳女 2人)
須 崎	もりはた小児科	流行性角結膜炎 17例 (全例アデノ陽性、1~5歳が12人、管内保育所で大流行) hMPV 1例 (1歳女) 百日咳 1例 (9歳男)
幡 多	こいけクリニック	ノロウイルス胃腸炎 3例 (1歳女 2人、2歳女)
	さたけ小児科	マイコプラズマ 1例 (2歳男) アデノ 6例 (0歳男、1歳男 2人、1歳女、2歳女、3歳男) hMPV 3例 (0歳男、2歳男女)
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 1例 (3歳男)

★県外で注目すべき感染症

○風しんの届出数が多い状態が続いています

2019年第1週～31週の報告数は2,061人となっており（2018年の同時期全国で101人）、95%（1,948人）が成人で、30歳から50歳代の男性を中心に（男性1,633人、女性428人）に報告数の多い状態が続いています。



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府以外に福岡県、愛知県、兵庫県、佐賀県、島根県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなどさらなる注意・予防に努めましょう。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ

感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染

潜 伏 期 間 : 2～3週間程度

感染性のある期間: 発疹のでる7日前から発疹出現後7日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。

風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1歳児、小学校入学前1年間の幼児の方）

・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠20週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【風しんの抗体検査について】

県及び高知市は、風しん及び先天性風しん症候群の発生の予防及びまん延防止を図るため、高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性やその家族などに対して無料の風しん抗体検査を実施しています。抗体検査を実施する医療機関により検査受付は異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

また、風しんの追加的対策として2019年4月1日から2022年3月31日まで以下の対象者は無料の風しん抗体検査及び定期の予防接種(第5期)を実施しています。

2019年度は、

・1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

・1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

受診可能な医療機関をご確認のうえ、各医療機関にお問い合わせください。厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

なお、受診時には本人確認（免許証、マイナンバーカードなど）ができる書類をご持参ください。

風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

【各医療機関管理者の皆様へ】

(高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より)

- 1) 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- 2) 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生環境研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しんの追加的対策関係：医療機関・健診機関向け手引き（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000116890_00003.html

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

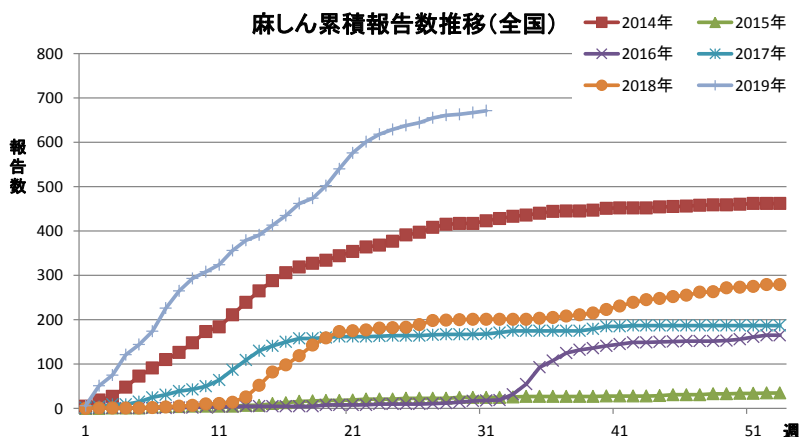
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

●衛研ニュース第20号（高知県衛生環境研究所）30～50歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

〇麻しんに気を付けて！

麻しんについては、平成27年3月27日付けで世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が排除状態にあることが認定されましたが、その後も海外で感染した患者を契機とした国内での感染の拡大事例が散見されています。2019年第1週～31週の全国の麻しんの報告数は671人と過去5年で比較して多い状態が継続しています（累積報告数：2014年462人、2015年35人、2016年165人、2017年187人、2018年279人）。今後、感染の拡大する可能性がありますので注意してください。



予防にはワクチン接種が有効です。定期接種の対象年齢になったら、予防接種を受けましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

(高知県健康対策課 平成31年3月4日付け30高健対第1886号「麻しん発生報告数の増加に伴う注意喚起」より)

- ①発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、麻しんの可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、麻しんの罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻しんを意識した診療をお願いいたします。
- ②麻しんを疑う患者を診察した場合は、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所に連絡し、確定診断のための県衛生環境研究所でのウイルス検査を行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へご連絡をお願いします。また、麻しん患者と確定した場合は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第12条第1項の規定に基づき、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所へ速やかに届け出るとともに、麻しんの感染力の強さに鑑みた院内感染予防対策をお願いいたします。

●医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版 平成30年5月（国立感染症研究所疫学センター）

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/guideline/medical_201805.pdf

●麻しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

●麻しん（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年8月13日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(59定点医療機関)

定点名	疾病名	保健所	第32週 令和元年8月5日(月)～令和元年8月11日(日)							高知県衛生環境研究所			
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(31週)	高知県(32週末累計) H30/12/31～R1/8/11	全国(31週末累計) H30/12/31～R1/8/4
心臓 エボラ	インフルエンザ							()	()	947 (0.19)	13,747 (286.40)	1,426,501 (288.71)	
小児科	咽頭結核膜炎		5	9			6	11	31 (1.03)	29 (0.97)	1,484 (0.47)	381 (12.70)	42,433 (13.44)
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎		1	23			3	10	37 (1.23)	32 (1.07)	4,066 (1.29)	2,133 (71.10)	220,060 (69.71)
	感染性胃腸炎	3	12	31	3	2	29	80 (2.67)	47 (1.57)	10,170 (3.22)	4,106 (136.87)	547,306 (173.36)	
	水痘	3	1	4				8 (0.27)	8 (0.27)	867 (0.27)	244 (8.13)	33,819 (10.71)	
	手足口病	1	3	8	3		10	25 (0.83)	71 (2.37)	33,329 (10.54)	2,202 (73.40)	271,273 (85.93)	
	伝染性紅斑		1	4	2	2		9 (0.30)	32 (1.07)	2,389 (0.76)	376 (12.53)	69,616 (22.05)	
	突発性発疹	1	5	6	1	1	1	15 (0.50)	11 (0.37)	1,378 (0.44)	313 (10.43)	39,824 (12.61)	
	ヘルパンギーナ		1	6	1	2	5	15 (0.50)	13 (0.43)	7,750 (2.45)	522 (17.40)	58,859 (18.64)	
	流行性耳下腺炎			1				1 (0.03)	()	265 (0.08)	30 (1.00)	9,909 (3.14)	
	RSウイルス感染症	1	12	34	1			48 (1.60)	32 (1.07)	4,441 (1.40)	485 (16.17)	44,843 (14.20)	
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	15 (0.02)	1 (0.33)	232 (0.33)	
	流行性角結膜炎	1		1				2 (0.67)	1 (0.33)	537 (0.77)	45 (15.00)	13,310 (19.15)	
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	9 (0.02)	2 (0.25)	295 (0.62)	
	無菌性髄膜炎							()	()	16 (0.03)	1 (0.13)	384 (0.80)	
	マイコプラズマ肺炎		2	1				3 (0.38)	1 (0.13)	79 (0.17)	85 (10.63)	2,359 (4.92)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	5 (0.01)	4 (0.50)	61 (0.13)	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	()	9 (0.02)	88 (11.00)	4,587 (9.58)	
計 (小児科定点当たり人数)	10 (4.50)	43 (5.83)	128 (11.46)	11 (3.66)	16 (8.00)	66 (13.20)	274 (8.96)			67,756	24,765 (646.13)	2,785,671	
前週 (小児科定点当たり人数)	13 (6.50)	39 (5.56)	123 (11.00)	19 (6.34)	27 (13.50)	56 (11.20)		277 (9.19)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第32週							高知県衛生環境研究所			
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(31週)	高知県(32週末累計) H30/12/31～R1/8/11	全国(31週末累計) H30/12/31～R1/8/4
心臓 エボラ	インフルエンザ									0.19	286.40	288.71	
小児科	咽頭結核膜炎		0.71	0.82			3.00	2.20	1.03	0.97	0.47	12.70	13.44
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎		0.14	2.09			1.50	2.00	1.23	1.07	1.29	71.10	69.71
	感染性胃腸炎	1.50	1.71	2.82	1.00	1.00	5.80	2.67	2.67	1.57	3.22	136.87	173.36
	水痘	1.50	0.14	0.36				0.27	0.27	0.27	0.27	8.13	10.71
	手足口病	0.50	0.43	0.73	1.00		2.00	0.83	0.83	2.37	10.54	73.40	85.93
	伝染性紅斑		0.14	0.36	0.67	1.00		0.30	0.30	1.07	0.76	12.53	22.05
	突発性発疹	0.50	0.71	0.55	0.33	0.50	0.20	0.50	0.50	0.37	0.44	10.43	12.61
	ヘルパンギーナ		0.14	0.55	0.33	1.00	1.00	0.50	0.50	0.43	2.45	17.40	18.64
	流行性耳下腺炎				0.09			0.03	0.03		0.08	1.00	3.14
	RSウイルス感染症	0.50	1.71	3.09	0.33			1.60	1.60	1.07	1.40	16.17	14.20
眼科	急性出血性結膜炎									0.02	0.33	0.33	
	流行性角結膜炎	1.00		1.00				0.67	0.33	0.77	15.00	19.15	
基幹	細菌性髄膜炎									0.02	0.25	0.62	
	無菌性髄膜炎									0.03	0.13	0.80	
	マイコプラズマ肺炎		2.00	0.20				0.38	0.13	0.17	10.63	4.92	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.01	0.50	0.13	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)									0.02	11.00	9.58	
計 (小児科定点当たり人数)	4.50	5.83	11.46	3.66	8.00	13.20	8.96			646.13			
前週 (小児科定点当たり人数)	6.50	5.56	11.00	6.34	13.50	11.20		9.19					

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第32週)

